



学校便り



浅海

松山市立浅海小学校

2019.5.9

世代交代

校長 芳野 妙 美

「去る平成、来たる令和」、さながら新年を迎えたような雰囲気にも包まれた10連休でした。5月1日から令和元年。新しい時代の到来を日本中の人々がそれぞれの思いをもって受け止めていたことと思います。悲慘な戦争を乗り越え、戦後、高度成長を遂げた昭和時代、ICT（情報通信）の革新的な進歩の一方、大きな災害を経験した平成時代、さて令和はどんな時代となるのでしょうか。

さて、「世代交代」という言葉がありますが、この連休の天皇退位・新天皇即位の報道は、「世代交代」について考える機会となりました。世代交代には、最前線で活躍してきた人が第一線を退く、引退する、退職するということが付いてきます。それは、どの世界にもあることで、身近な例としてはスポーツ界があります。記者会見等を見て共通していると感じることは、「日の丸」を背負って、またはプロとして世界の舞台上で活躍してきた一流選手が、年齢を重ねる中で体力・気力の衰えを感じたり、若手選手の台頭によって実力を発揮する機会が少なくなったりすることが引退の多くの理由だということです。最近では、『イチロー選手』の引退が印象に残っています。

個人的なことです。私は大ファンだった『千代の富士』の引退が忘れられません。貴花田(当時)に敗れた取組は「世代交代」を象徴する取組だったと思います。その後の引退会見で、千代の富士の涙する姿を見て「まだやれるのに残念だな。寂しいだろうな。悔しいだろうな。」と思ったものです。しかし、年月を経た今は、世代交代や引退は決して寂しいだけではないように感じます。千代の富士は、体力は限界だったにもかかわらず勝ち続ける使命を全うし、充実感を味わいながら肩の荷を下ろしたのでしょう。

「ありがとう平成」とインタビューで語る人がいましたが、私の教員生活のほとんどが平成時代であることを思うと、充実感と感謝の気持ちが湧いてきます。「平成」から「令和」という元号の世代交代は、「令和」の意味するように、日本人皆が美しく心を寄せ合った世代交代ではなかったのでしょうか。

校長会で、「(あなたが)バトンを渡したいと思える人を育てなさい。」というお話がありました。私自身、退職までの数年の生き方を考えると、優先順位の上位に「後進の育成」があります。そして、充実感を味わいながら潔くバトンを渡す日を夢見ています。その日を迎える自分は、大きな充実感に包まれ、少しの寂しさが見え隠れするという姿であってほしいと願っています。



さあ、新しい学年のスタート!! 新しい時代のスタート!!



入学おめでとう!! 新1年生を迎え、今年度は全校児童32名です!



小さな学校でも、大切なことは話し合って決めたり、縦割り班で助け合ったりします。もちろん、遊ぶときはみんな一緒!!

郷土クラブ、新メンバーで伝統の技を披露!



4月29日(月)、明見神社の春祭りに、「郷土クラブ」が新しいメンバーで出演しました。初舞台にドキドキしながらも、精一杯心を込めて獅子舞と金時を演じました。地域の方からの声援を励みに、今後も一人一人が歴史と伝統を引き継いでいく気持ちを強くすることができました。